

AKISTA GO 県外スタートアップ実証成果発表

オンライン・AIを活用した新たな 「フレイル予防インフラ」の実現

2026/3/25
株式会社Rehab for JAPAN

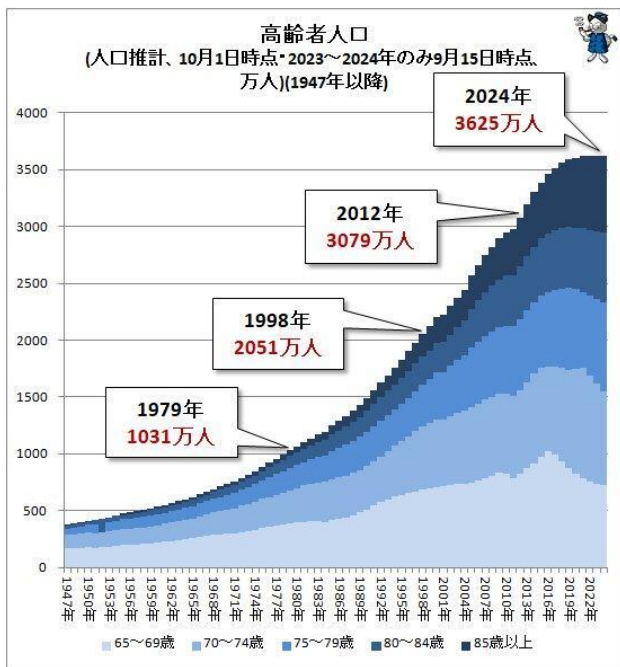


実証の背景

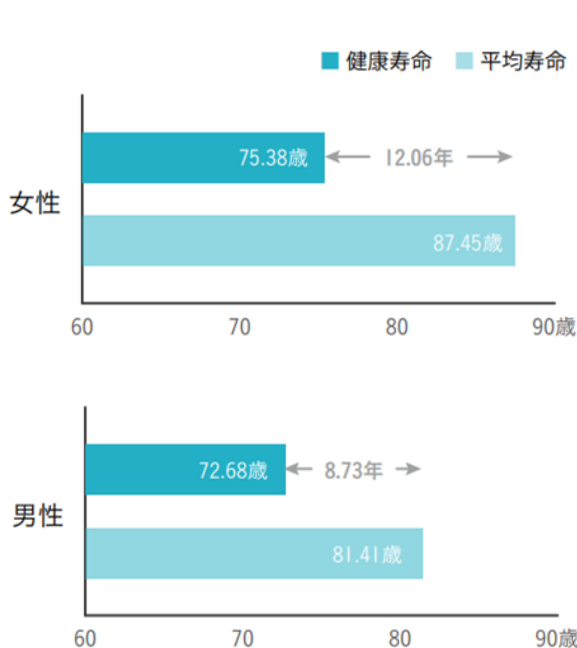
平均寿命と健康寿命の差を縮めなければ！

世界No.1の長寿国日本、しかし不健康になってからが長い！

日本の高齢者人口



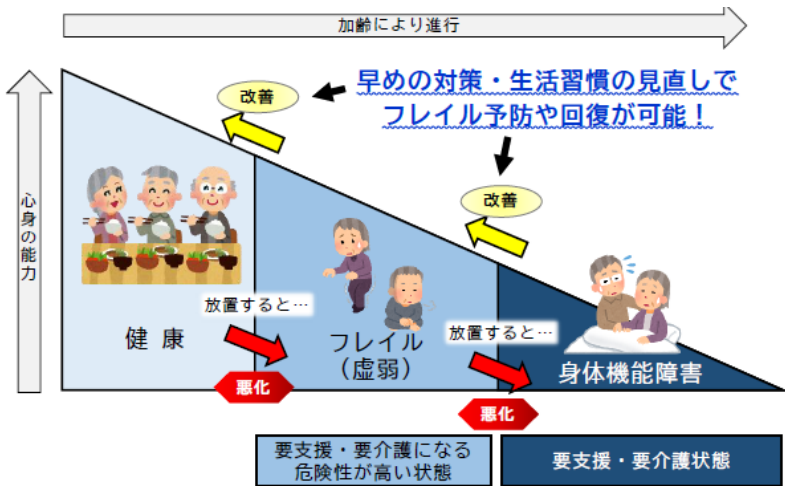
日本の平均寿命と健康寿命の差



各自治体の「介護予防運動教室」や「サロン（通いの場）」は
非常に有意義な取り組みである一方、**課題が多数存在**

フレイル予防の重要性

通いの場の普及展開に係る課題一覧



図表13. 「PDCA サイクルに沿った取組の推進に資する研修会」アンケート調査結果

	課題	回答件数(複数回答可)
行政レベルの課題	1. 地域課題の分析ができていない	169
	2. 地域の重点課題の整理ができていない	163
	3. 漠然と通いの場に関する事業を実施している	106
	4. 多様な通いの場の把握ができていない	83
	5. 通いの場の種類が限定的である	93
	6. どのような通いの場を増やすべきかわからない	95
	7. 通いの場の目標数が検討できていない	79
	8. 通いの場の立ち上げの戦略策定ができていない	119
	9. 通いの場の継続支援の戦略策定ができていない	126
	10. 通いの場を普及展開するための方法が分からない	92
	11. 通いの場の効果的な周知ができていない	97
現場レベルの課題	12. 通いの場へのフォローアップ体制が十分でない	110
	13. 立ち上げ支援の費用捻出が難しい	38
	14. 他機関や他事業との連携ができていない	84
	15. 効果的な分析方法や評価方法がわからない	205
	16. 効果分析・評価結果を事業改善に活用できていない	127
	17. 担い手が不足している	251
現場レベルの課題	18. 運動などの指導者が不足している	80
	19. 新規の参加者が少ない	205
	20. 男性の参加者が少ない	283
	21. 参加者の高齢化が進んでいる	234
	22. 参加者の健康や体調に不安がある	41
	23. やめていく人の追跡やフォローができていない	150
	24. 場所の確保が難しい	76
	25. 運営のための資金が不足している	26
	26. 活動内容がマンネリ化している	117
	27. コロナ禍で一旦休止した後、再開できていない	69

介護予防促進に向けた課題整理

「**対面でのリアル開催が前提**」となっているゆえに、
提供機会や内容に限界があり、拡張しづらい構造

利用者

- 参加率/継続率が低い、メンバーが固定化、本来参加すべき対象者へリーチできない
- 熱中症リスクから夏場は外出は控えたい、実施場所までの移動距離が遠くて、参加が難しい
 - 女性ばかりが参加しており、馴染めない。自分の状態にあった体操教室ではないと思う
 - 実施場所までいかない限り運動する機会がない、自主トレのやり方はわからない

介護予防教室の委託先

- トレーナーの配置が制約事項となり、開催場所や頻度を増やせない
- 運動トレーニングを提供できるスタッフ（PT/OTなど）の配置が必要
 - トレーナーの人件費+交通費をもらわないと報酬水準が合わない
 - できれば地域のボランティアが担えると良いが、安全性など質の担保がむずかしい

自治体

- 介護予防に対する予算を増やしづらく、現予算のだけでは改善の打ち手を見出せない
- 高齢者の増加に伴い、自治体予算を抑えつつ、介護予防の強化が必要
 - 自治体としてICT活用を進めていくべきだが、何から始めていけばよいか不明
 - 根本的に、介護予防教室はアウトカムを正しく評価できていないのが大半

実証実験の概要

オンライン・AIを取り入れた「ハイブリット型介護予防教室」

当社が提供するシステムによって、介護予防に資する取り組みの柔軟性を上げ、体制/人員・開催場所・気象状況に左右されない介護予防リハビリの強化・拡充を実現

オンライン・AIを取り入れた「ハイブリット型介護予防教室」

既存の介護予防教室

- 一般介護予防事業
- 介護予防・生活支援サービス事業（通所C等）
- 高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施



Rehab Studio

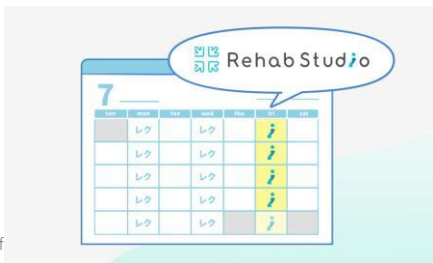
オンライン上でリハビリ・体操ができるシステム

Rehab Cloud モーションAI

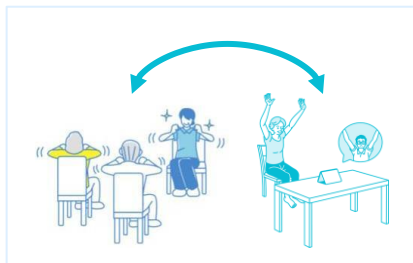
動作を動画解析し高齢者の身体機能の客観評価

取り組み例

対面型とオンラインを
組み合わせて開催頻度増加



リアル参加が難しい利用者は
自宅から同時接続で参加



動作分析モーションAIを活用して
事前評価・事後評価を実施



ソリューション①：保険外のオンラインリハビリサービス「Rehab Studio」

リハビリ専門職とオンラインで会話しながら取り組む集団リハビリ・体操を通して、身体機能やQOLの改善・介護予防を支援する保険外サービスです。介護事業所を中心に累計約10,000名以上の高齢者に対して提供しています。



Rehab Studio

会場のモニターを通じて、みんなで集団体操



自宅からでもタブレットで参加可能

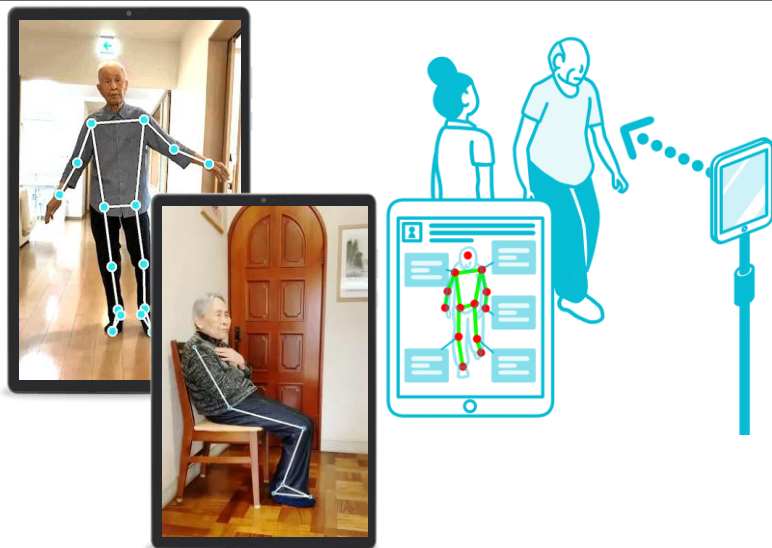


ソリューション②：動作分析AI「Rehab Cloud モーションAI」

高齢者の片脚立位、立ち座りテストを撮影した動画データをAIが解析し、高齢者の身体機能を客観評価できるサービスです。下肢筋力やバランス能力の評価から転倒リスクを予測し、高齢者本人が運動の必要性に気づく・伝わる機会を創出します。



タブレットから動画データをAI分析



分析レポートと個別化された運動資料



実証実験の概要

2025年10月より3ヶ月間、高齢者113名を対象にした大規模実証実験



Rehab Studio

AKISTA



秋田県



あおだてし
大館市

秋田県大館市で

「オンライン・AIを活用したフレイル予防」の
実証実験を開始



実証実験の目的・検証方法

オンライン・AIを取り入れた介護予防教室は 参加者の満足度が高く持続的なモデルかを検証

検証内容	<p>①オンライン体操指導の受容度・満足度・継続意向・運動意欲や定着度の変化</p> <p>②実施する上での運営面の持続性 (例) オンライン集団体操の会場運用が問題なく行えるか、自宅参加型の利用者が問題なく参加できるか、人材リソースの拡充につながるか</p>
検証方法	<ul style="list-style-type: none">● 「かたりあい」の運動プログラムの一部で施設集合型オンライン体操を実施 -7グループにそれぞれ対して月1回×3ヶ月（合計96名）● 「サロン」利用登録者の中で希望者に対して、自宅参加型オンライン体操を追加実施 -2グループにそれぞれ対して月2回×3ヶ月（合計17名）● 参加者に対して動作分析モーションAIを活用した事前・事後の身体機能評価を実施
検証期間	2025年10月～2026年1月
評価方法	<p>検証内容①：参加者に対するアンケート、複数名の参加者に対するインタビュー 身体機能の維持・変化（5回立ち座り秒数、片脚立位秒数など）</p> <p>検証内容②：比内ふくし会運営スタッフ・大館市関係者との振り返り</p>

実証結果

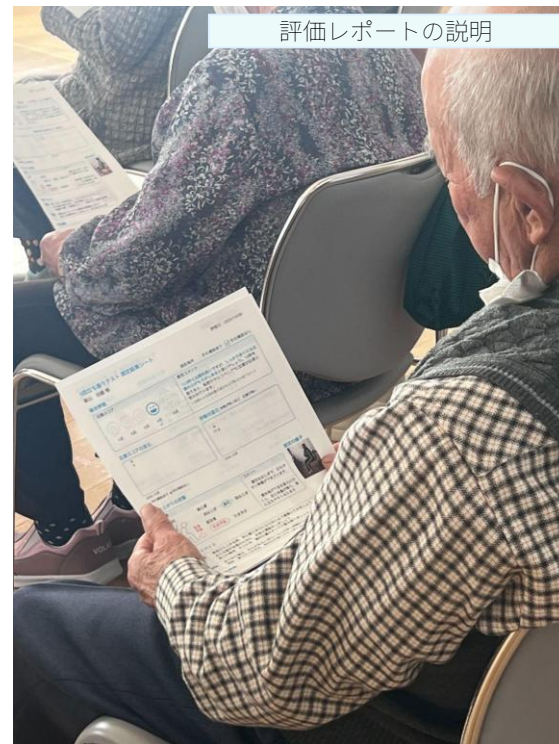
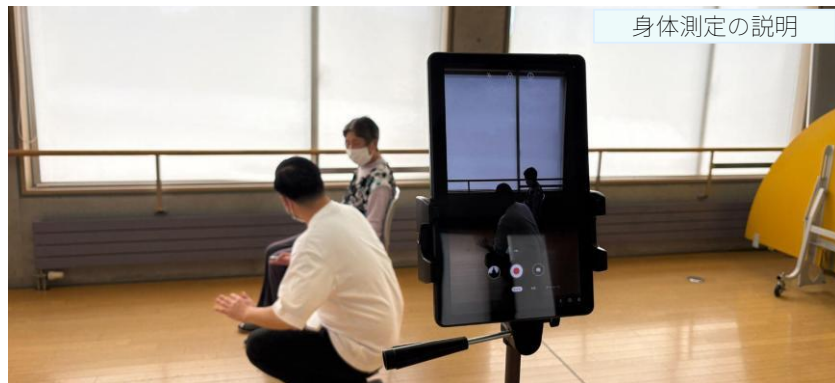
みなさん楽しそうに取り組んでおられます



自宅からも、みなさん楽しそうに取り組んでおられます



AIによる事前事後での身体評価をキチンと実施

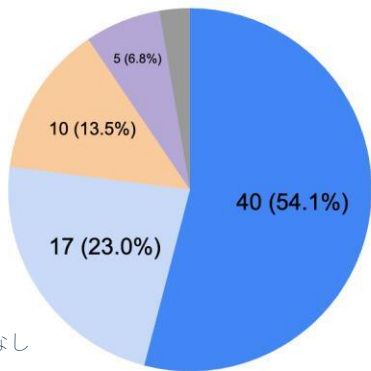


施設集合型は、全体の約8割弱が肯定的な回答
 自宅参加型は、全員が肯定的な回答

施設集合型アンケート

【Q1】 普段の体操と比べて、今回行ったテレビ電話の運動はどうでしたか？（1つ選択）

- 1.非常に満足している
- 2.概ね満足している
- 3.どちらでもない
- 4.あまり満足していない
- 5.全く満足していない

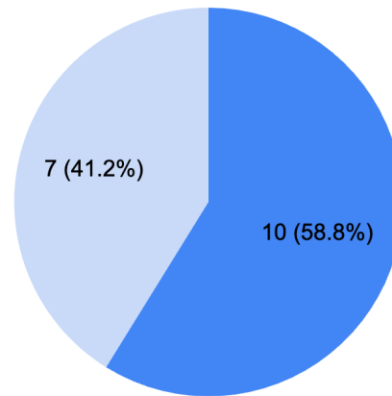


回答0の選択肢：なし

自宅参加型アンケート

【Q1】 普段の体操と比べて、タブレットを使ったテレビ電話の運動はどうでしたか？（1つ選択）

- 1.非常に満足している
- 2.概ね満足している



回答0の選択肢：3.どちらでもない、4.あまり満足していない、5.全く満足していない

参加者のコメント

施設集合型でも自宅参加型でも、ほとんどの参加者が大絶賛！
対面と同じく実施できただけでなく、むしろオンラインならではの特徴も評価



「画面をみても真似できたし、分かりやすかった」「テレビ電話でも対面と変わらずできた」
「テレビ電話でも、先生の笑顔がよくて身近に感じた」「対面と同じように理解できた」



「一人だとうまくできない。だけど、このTV電話での体操は続けられる」
「紙の体操・TVの体操と比べて、オンラインは格段に良かった」



「一人でやるより続けやすい。他の参加者の顔が見えることで励みになった」
「タブレットは最初は不安だった。続けると慣れてきて、やるのが楽しくなった」
「画面の方がリラックスできる（対面は緊張する）」



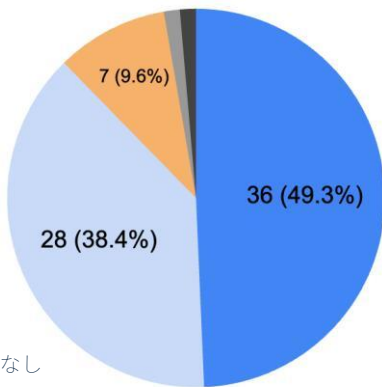
「自宅でもTV体操をやるようになり、運動意識がアップした」
「股関節、腰、膝の動きが良くなった」「これからも気持ち・体が若くいられると感じた」
「つまづかないようにするための意識があがった」
「テレビ電話体操の日は「休めない！」と思ってきてた」
「大学生の孫に「おばあちゃん、テレビ電話で体操してんだよ！」と自慢できた」

「ぜひ続けたい」「どちらかと言えば続けたい」を含めると、
継続意向は施設集合型は全体の約9割弱、自宅参加型は全体の約8割。

施設集合型アンケート

【Q7】今回行ったテレビ電話の運動は、今後も続けてきたいと感じますか？（1つ選択）

- 1.ぜひ続けたい ● 2.どちらかと言えば続けたい ● 3.どちらでもない
● 4.どちらかと言えば続けたくない ● 5.全く続けたくない

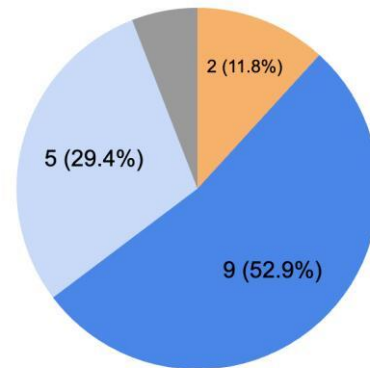


回答0の選択肢：なし

自宅参加型アンケート

【Q9】タブレットを使ったテレビ電話の運動は、今後も続けていきたいですか？

- 1.ぜひ続けたい ● 2.どちらかと言えば続けたい ● 3.どちらでもない
● 4.どちらかと言えば続けたくない ● 5.全く続けたくない



回答0の選択肢：5.全く続けたくない

「続けたい」参加者のコメント

楽しかったから、健康に良い影響を実感しているからという理由



「笑いあり、楽しくて、またやりたい」「またやれる機会がありますか？」
「一人でいると、話す相手いないけど、おしゃべりもできてよかった。」
「続けたい。精神的にもいいし、明るい気持ちになれる。」
「一人だとやらないから、続けたい」
「楽しかったから続けて欲しい。これで終わってしまうのは残念」



「体、筋肉、手足や股関節が動くのを感じるし、続けたい」
「やると体が軽くなるし、またやりたい」「健康になれるから続けたい」
「夏の暑さに耐えられる運動が知りたい」
「続けたい。楽しんで、気づいたら元気になっているのがいい。」
「ここでやめると変わらないので続けたい」「自分のために、継続してやっていきたい」
「運動をする機会があまりないから、佐藤先生みたいな人に教えてもらって運動するのは良い」
「ぜひ続けていきたい。ここで終わるのはもったいない」
「一人では難しいが、集団や先生がいれば頑張れる」

5回立ち座り、片脚立位ともにスコア・秒数が改善！

		初回	最終
5回立ち座り	足腰スコア	3.4	3.8 改善
	秒数	15.4	13.7 改善
片脚立位	FRS	😊 34人 😊 13人 😞 43人	😊 45人 改善 😊 9人 😞 36人
	秒数	8.5	10.2 改善

評価指標の補足説明

No	項目	説明
1	足腰スコア	1~5点で足腰の強さを見るスコアです。 カットオフ値はSPPBという標準的な身体機能評価ツールの基準値に則っています。なお、測定条件はスコアに影響しません。 <ul style="list-style-type: none"> • 1点：5回完遂不可（60秒以内） • 2点：16.70秒以上 • 3点：13.70 - 16.69秒 • 4点：11.20 - 13.69秒 • 5点：11.20秒未満
2	FRS（バランス能力）	秒数よりバランス能力を3段階で判定しています。 <ul style="list-style-type: none"> 😊：同年代／同性標準以上 😊：カットオフ（5秒）以上～同年代／同性標準未満 😞：カットオフ（5秒）未満 【参考文献】 <ul style="list-style-type: none"> • 同年代／同性標準：介護予防高齢者の運動器関連指標 • カットオフ：フレイル理学療法ガイドライン

今後の展開

地元の新聞にも記事掲載

地元新聞のメディアパワー、（意外にも）凄い！

9月北鹿新聞

9月魁新報

10月北鹿新聞/魁新報記事

A I 活用のリハビリ事業

10月から実証の見通し

石田市長 大雨被害は6億円超

大館市の自治体議会、日本会議を準備し、了機が認められた。これは、大館市が、AI活用によるリハビリ事業を、10月から実証する見通しがある。石田市長は、この見通しについて、記者会見で明らかにした。市長は、AI活用によるリハビリ事業は、10月から実証する見通しがある。これは、大館市が、AI活用によるリハビリ事業を、10月から実証する見通しがある。市長は、この見通しについて、記者会見で明らかにした。

大館市9月議会一般質問

登壇した伊藤議員は、大館市のAI活用によるリハビリ事業について、一般質問を行った。伊藤議員は、大館市のAI活用によるリハビリ事業について、一般質問を行った。伊藤議員は、大館市のAI活用によるリハビリ事業について、一般質問を行った。

リハビリ、オンラインで

来月から実証事業開始

大館市は、リハビリの事業を、来月から実証する見通しがある。これは、大館市が、AI活用によるリハビリ事業を、10月から実証する見通しがある。市長は、この見通しについて、記者会見で明らかにした。

AI活用しフレイル予防

大館市 県外新興企業が事業

65歳以上対象に実証実験

講師が映し出されたスクリーンを見て講師する参加者 (江内福祉保健総合センター)

大雪、講師不足にも対応

オンライン技術とAIを活用した介護予防の取組

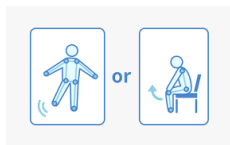
近隣の介護事業者向けに実証実験の見学会を開催

オンラインリハビリの実施イメージが伝わり、
来年度、大館市の社会福祉法人や民間事業者7施設から申込



※引用：水交苑HPお知らせ
https://suikohen.jp/pages/40/detail=1/b_id=1245/r_id=1032/#block1245-1032

豪雪地帯や中山間の過疎地域でも持続可能なフレイル予防、地域づくりに向けて、もっともっとオンラインリハビリの社会実装を進めていきたい！



Rehab Cloud モーションAI

Rehab Studio

Rehab Studio

介護予防教室の活動として、
集団体操でオンラインリハビリ

Rehab Studio

自宅からもオンライン
リハビリに参加

評価レポートからプログラム提案
継続した運動の必要性を認識
※自宅を利用予定の方には、タブレット貸与の手続



定期的振り返り/評価を行うことで
改善効果を実感、継続的に取り組む意欲倍増！

地場の地域支援センターや
通いの場等のイベント参加時に
「モーションAI」を活用して
身体評価・転倒リスクを体験



介護に関わるすべての人に、夢と感動を。